

「富山県経済・文化長期ビジョン懇話会」及び「同 青年部会」  
(設立趣旨)

急速な高齢化により人口減少社会に突入した我が国は、市場の縮小、生産年齢人口の減少、限界集落や消滅可能性都市に代表される地域課題、さらに将来にわたって社会保障制度を持続可能なものとするための国民負担のあり方や累増してきた公的債務の処理など、極めて厳しい現実と直面している。

このような状況下において、長らく低迷していた我が国経済については、最近の政府の異次元の金融緩和、景気回復に向けた機動的な財政政策等により、株価の上昇、雇用情勢の改善、設備投資の回復など力強さを取り戻しつつあり、今後は、政府の成長戦略の実効性ある推進とあわせて、いわゆるアベノミクスの成果を県内各地域にいきわたらせていくことが求められている。

本県においても、景気・雇用とも回復基調にあり、また、三位一体改革に伴う地方交付税等の大幅削減、新幹線整備に係る巨額の地方負担等に起因する極めて厳しい財政状況については、この10年余の懸命な行政改革の努力、新幹線の地方負担の大幅軽減に向けた国への働きかけと相当程度の改善等により、財政の健全化が進捗しつつある。また、県民の半世紀近い悲願であった北陸新幹線の開業に伴い、これを新たなスタートとして経済・産業活性化、研究開発の革新、観光振興、新たな企業誘致、定住・半定住などにより富山の新たな未来を切り開いていかなければならない。

幸い、政府に地方創生を国政の重要テーマとしていただくことができ、本県も多くの県民の知恵とパワーを結集するための「とやま未来創造県民会議」を設置し、議論・検討を行っている。しかしながら、地方創生は当面5年間の計画を策定し取り組むこととされていることから、この議論と並行して、富山県の経済、文化やこれらを担う人づくりなどを中心として、グローバル化の一層の進展なども勘案しながら、10年先、20年先、或いは30年先を見据えた将来の長期ビジョンを策定し、各般の施策をどのように組立て、展開していくのかについて検討していく必要があると考えられる。

そのため、変貌する世界、アジアの中での日本、そしてふるさと富山県の将来を見据え、新幹線開業後の新しい富山県の長期ビジョンを議論し、方向づけをしていただくため、県内有識者はもとより、県外の本県にご縁の有識者の方々にも参画いただき、議論、提言いただくための場を設けるものである。

また、富山県の長期ビジョンを策定するうえでは、将来を担う次の世代の意見を反映していく必要があることから、有識者による議論の場に加え、新たに若者世代の議論・意見の場として青年部会を設けることとする。

これらの場での議論と提言などを通じ、ふるさと富山県の新しい未来を構想し、新たな成長、飛躍に結びつけ、活力と魅力あふれる県として、次の世代に継承、発展させていく確固とした基盤を創り出し、ひいては、日本創生につなげていくことを目指す。